

時間ですので、これでやめますが、今回積み残した問題につきましては、9月議会中、あらゆる機会に質問をやっていきたいと思っております。今日なかったからといって、楽にならないように終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

ここで説明員入替えのため、暫時休憩いたします。

再開を11時15分といたします。

〈午前11時11分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、渡辺栄一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。〔8番 渡辺栄一君登壇〕

○8番（渡辺栄一君）

渡辺栄一でございます。よろしくお願いいたします。

市民の皆様方をはじめ、いろいろな方々のお知恵を賜りながら、稼げるまち、人口増を目指し、活動することで当市の緑の交流都市、さわやか、健やか、輝きのまちへ寄与してまいりたいと存じております。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、当市における地域おこし協力隊員の高校魅力化コーディネーターについて。

高校魅力化コーディネーターは、総務省の外部人材活用制度の一つである「地域おこし協力隊」制度を活用したものと理解していますが、7月には2人目が任用され、その取組について伺います。

- (1) 高校の探究学習への授業支援とは、具体的にどのような内容のものなのか。
- (2) 自習スペースの管理運営とは、どのようなものなのか。
- (3) 県立高等学校3校のそれぞれの課題は何だと捉えているか。
- (4) 人材投入後、何をもって成果が出ていると判断していくのか。
- (5) 任期終了後の隊員の再就職口は決まっているのか。

2、当市のにぎわいの拠点施設「駅北子育て支援施設」計画について。

8月末で駅北子育て支援施設について、それぞれ各地区の懇談（3巡目）等が終了しました。今後のスケジュール等について伺います。

- (1) 子育て支援施設での主な悩み相談とは、どのようなものがあるのか。
- (2) 当施設が糸魚川市にとって、どのようなメリット・効果（インパクト）が期待できるのか。
- (3) 人口減少が著しい当市にとって、対象年齢等を限定した事業そのものが拡大し過ぎている

ように映るが、どう考えるか。

(4) 費用対効果の分析ができており、加えて新たな施設の建設により、当市の財政に負荷が生じていく危険（リスク）はないのか。

(5) 市内には、他の既存施設や空き店舗等がたくさんあり、改修・再利用を図っていくことで、限られた予算を「ハコモノ建設」より相談機能の充実などに充てるべきと考えるが、いかがか。

3、柵口温泉権現荘の指定管理の運営について。

柵口温泉権現荘の指定管理者の指定期間が、今年度末に満了となることから、令和5年度からの次期指定管理を含めて考えを伺います。

(1) 指定管理者制度は、公の施設の管理に民間のノウハウを活用し、住民サービスの向上や収益を図ることを目的としていると理解しているが、黒字化したという声が聞こえてこない理由は何だと考えているか。

(2) 当施設の魅力は何だと考えるか。また、反対に欠陥等はないのか。

(3) 申請期間が9月末となっているが、前回との応募資格の変更点及び応募状況はどのようになっているか。

(4) 利益の出せない企業は淘汰されていくが、市は指定管理者を指定する側として、施設運営上の課題や問題点等に対し、どのように把握して、改善サポートをしていくのか。

4、当市の諸課題について。

(1) 8月4日、当市ホームページに「新潟県が作成する積算関係図書の取り扱いにおける協定違反について」と題し、2件の事案が判明したとあるが、昨年の判決公判から公共事業に対する糸魚川市役所の信用が維持できているのか。まだどこに問題があるのか、伺います。

(2) 肥料価格の高騰による農業経営への影響緩和のため、国は化学肥料の2割低減農家に対して、前年度から増加した肥料費の約7割を補填するとあるが、当市も独自の追加支援策は考えているのか。

(3) 食料品の値上げが相次ぎ、家計にも影響が出始めています。市内公立小・中学校の給食費の圧迫が必至と考えられるが、現状はどうなっているか。また、場合によっては、予算措置による給食費の据置きも必要と考えるが、いかがか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2番目の1点目につきましては、既設の子育て支援センターでは、お子さんの成長や発達に関する相談を多く受け付けております。

2 点目につきましては、子育てに関する包括的支援を行うことで子育て環境の向上を図るとともに、復興まちづくりの推進と中心市街地におけるにぎわいづくりにつながるものと考えております。

3 点目につきましては、基本計画策定における懇談会での意見を踏まえ、対象年齢を小学生までに拡大・検討しております。

4 点目につきましては、建設時において財源の確保に努めるとともに、維持管理費においてコストの縮減に努めてまいります。

5 点目につきましては、子育て世代の孤立を防ぐために相談機能の充実とともに、保護者の交流の場を設ける必要があると考えており、引き続き、皆様のご意見をお聞きしながら進めてまいります。

3 番目の 1 点目につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により売上げが大きく減少したこと、加えて固定費が下がりにくいことと考えております。

2 点目につきましては、泉質の良さや周辺の自然環境等を生かした海の幸、山の幸を提供する料理が魅力と考えております。

一方で、建物内の動線が長く、効率が悪いことが不利なことと捉えております。

3 点目につきましては、応募資格を緩和し、9 月末を期限といたしております。

4 点目につきましては、毎月の定例経営会議等に参加し、対応いたしております。

4 点目の 1 点目につきましては、昨年の官製談合以来、市の信用は大きく損ないましたが、その後、職員一丸となって信頼回復に向けて努力してきております。

2 点目につきましては、市も国の支援策と併せ、増加した医療費の一部を支援するため、本定例会に補正予算を計上いたしております。

3 点目につきましては、学校給食にも物価高騰の影響があったことから、6 月補正予算で対応しております。今後も状況を注視しながら、検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

 靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

 渡辺議員のご質問にお答えいたします。

 1 番目の 1 点目につきましては、生徒が自ら課題を発見し、調べ、考えをまとめ、表現するなどの総合探究学習の授業にコーディネーターが生徒と関わり合いながら支援をしております。

 2 点目につきましては、高校と連携し、勉強の進め方や進路選択に向けた支援などを行っております。

 3 点目と 4 点目につきましては、各高校の魅力化を進め、入学志願者数を増やすことを目指しております。

5 点目につきましては、任期は 3 年であり、その後の予定は、今現在決まっておりません。
以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8 番（渡辺栄一君）

それでは、2 回目の質問に入ります。

まず最初ですけれども、3 校は、すみません、1 番目の質問になります。3 校は、市立高校ではありません。県立高校に対してコーディネーターを配置することになった、そういった背景というものは何なんでしょうか。先ほど倍率というんでしょうか、入学者を増やしたいというような、そんなような言葉もありましたけれども、かなり深刻といたしますか、どのように受け止めておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

3 校の志願倍率につきましては、先ほど市長答弁で申し上げましたとおり、ここ数年、定員数に満たない状況が続いております。

そのような中で、市が公立高校への支援に始めたきっかけでございますが、子ども一貫教育の方針でも述べております自立する 18 歳というのを設けておまして、そういった中で中学校卒業後、部活動やスポーツによって市外の高校を目指すお子さんもいらっしゃいますが、そういった中でも市内の高校へ進むことによって、改めて糸魚川市の魅力を知り、それがまた将来、糸魚川市につながるものといったことで、今回、高校の魅力化というものを進めておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8 番（渡辺栄一君）

先ほど市外へ流出というようなこともちょっと聞いたんですけども、市内の中学生が市外の高校へ、やっぱり流出するような原因といたしますか理由というんでしょうか、それは何だというふうに捉えておりますでしょうか。単にスポーツだとかそういったものなんでしょうか。そこら辺をどのように受け止めておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

やはり中学校までやってきたスポーツ、また文化活動等を次の高校のステップで、さらなる上の

ものを目指したいというお気持ちの中学生がスポーツ、文化活動に特色ある学校に進む。

また、市外の上越圏域の学校に進んでるお子さんもいらっしゃいます。そういった方々も、市内では学べないものを求めて、そちらのほうに行ってるものだというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

本市の中卒者の市外の高校への一定数の流出、やっぱり直江津だとか、あるいは高田だとか、そういったものは、もうやむを得ないんだろうと私は考えております。

ただ、やっぱり糸魚川市内の人口が、そもそも減り過ぎてしまって、本市の中卒者の両親が働き盛りといたしますか、40代のお父さんとかお母さんがいなくなっているという、そういった要因が大きいのではないかとこのように思いますけれども、そこら辺はどう考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

少子化という部分にもつながると思っておりますが、出産の人数が、ここ数年200名を切ってるというような状況でございます。そういった要因というのは、1つには結婚適齢期の人口層が少ないといったものも考えておりますので、そちらにつきましては、定住施策と一緒にしているところでございます。

また、私、先ほど市内3高校ということで、市内の中学校から進学される方ということで申し上げましたが、例えば県立海洋高等学校につきましては、県外からも、そういった海洋の魅力を学びたいということで、親元を離れて海洋高校を目指してくるといった生徒もございますので、そういったそれぞれの高校の特色というものをさらに伸ばしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

今、海洋高校の名前が出ましたけれども、パンフレットなんかはかなり積極的に作られて、フォッサマグナミュージアムなんかにも閲覧用のパンフレット、後はちょっと前にポスターというんでしょうか、そういったものも貼ってあって、非常に攻めといたしますか姿勢をやっぱり感じるんですよ。だからやっぱり多少、かなり厳しいとは思いますが、ほかの2校はないのはちょっと残念だなと思ったりもするんですけども、海洋高校さんの場合は、こういった出張説明会なんかもあって、非常に、埼玉、長野だとか、たしか群馬って書いてあったような気がするんですけども、そういったところにもわざわざ出向いて、非常に積極的に活動といたしますか、こういったことをやっているといたしますか、そういったものを感じるんですけども、そこら辺はどう受け止めておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

海洋高校の志願者数を増やすためといいますか、入学者向けの活動に対しましては、やはり海洋高校のほうも、このまま行っただけでは駄目だというふうな問題意識から、そういった県外、また市内ももちろんPRに努めておられるというふうに考えておりますが、そういった危機感から発生したものだというふうに考えておりますし、そういった中で、さらに海洋高校が持つ教育のすばらしさというのを他県の生徒にも伝えたいといったことで、現在活動しているものというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

糸魚川高校に関してなんですけども、同窓会の会報というんでしょうかね、そういったことによりますと、令和3年度の卒業生の進路の状況として、136名が卒業したというふうに書かれておりました。

それで、糸魚川高校といいますとやっぱり進学校というような概念といいますか、そういった気持ちはあるんですけども、国公立、私立を合わせて88名の生徒が大学・短大へ進学して、進学率は64.7%というようなことが書いてありました。専修学校へは36名行ってるよというようなことも書いてございまして、大体それを合わせますと92%ぐらいの数字で、私は、数字的にはそんなに悪いとは思ってはいないんですけども、むしろ頑張ってるなというような印象はあるんで、もうちょっと自信を持ってといいますか、高校のほうもこれだけ、昔に比べて大学の数というのは増えてきて、意外とちょっと入りやすいというような、そういう認識はあるんですけども。それにしてもそこそこ頑張っているのではないかというふうに思っておりますんで、そこら辺は市としてはどのように受け止めておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

糸魚川高校につきましては、進学率は、今ほど議員おっしゃった形で9割を超えてるという状況でございます。

そういった中で、これまで私どもも少し不足してたなと感じるのが、例えば大学後の進路というものなり専修学校の進路というものを、その学校へ入ってから考えるというのも一つでもありましようが、何を学ぶために学校に行くのかということをしっかり生まれてから中学生まで、さらには高校までつなぐことによって、自分が目指したい夢というものをしっかりと持つ。また、人に説明ができるというような形の生徒になっていただいて、今後それぞれの道で活躍していただきたいと

いうふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

最近の入学制度というんでしょうか、大分変わってきて、我々のときの試験1本というよりは、むしろ総合型選抜だとか学校推薦、選抜型とか、そういったものが増加していると。それで、そういった試験を利用する生徒さんも割合が増えていると。今後さらに受験の多様化が見込まれて、総合型選抜や学校推薦型選抜など、そういったものも増えてくるだろうと。それで、同窓会報によると、早めに対応していくことが必要だということなんですけども、それは先ほどコーディネーターさんといいますか、それも仕事の範疇といいますか、そういったものに入るんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

大学への入試制度というのは、議員おっしゃるとおり総合型選抜といった推薦制度が入ってきたり、以前とはかなり変わってきてるところでございます。

そういった中で、一般入試以外でも大学を目指すということで総合型選抜の講座につきまして、糸魚川高校においても今年度、学校とコーディネーターが一緒になって講座のほうを8回実施しまして、その中では、主に自分が目指したいものをしっかりと言葉にし、表現する。志望理由書をしっかりと作り上げるといったことを中心に、講座のほうを今年度初めてであります、取り組んできたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ちょっと（5）番目になりますけれども、隊員が、3年間は一応あるということなんですけども、本当に待遇面だとか士気だとか、そういったものはどう捉えておりますでしょうか。精神的なものというんでしょうか、コーディネーターさんの、そこら辺はどのように考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

待遇面等につきましては、それぞれ募集の要項に書かれてあるとおり月額22万円ということと、あとそれ以外の住居手当等につきましては、一定の限度を設けて募集をしているところでございます。そういった中での皆さん応募される方、またコーディネーターになられた方の士気、気持ちと

いう部分かと思っておりますが、それぞれ皆さん、教科を教えるということではなくて、それぞれの生徒の探究の部分であったりとか、その先の進路について、やはり生徒たちと関わりたいといった思いで応募してきてくださる方が多い状況であります。

また、単に学校だけで何か教えるのではなくて、学校と地域をつないでいきたいといった部分でも、それぞれコーディネーターの方が感じ取る中で、魅力化の事業を進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

1の質問は、これで最後にしたいと思えますけれども、やっぱり新たな時代といいますか、生き抜いていくためには、今までの勉強だけではなくて様々な力を身につける必要があると思います。地域と関わるという今までない体験が、高校生にとって意義あるものとなり、自身の将来を見据えた進路で難しい選択でもあるかもしれませんが、やはり未来を切り開いて行ってほしいと、そのように思っております。

1番目の質問は、これで終わりたいと思います。

続いて、2番目の質問に入らせていただきます。

先ほど悩みの相談というのは、どのようなものがあるかというようなことでしたけれども、発達障害というようなことも何かさっき市長がおっしゃったようだったんですけども、悩みの相談だとか、そういった一時預かりができる場所というのは、ほかの空きがある既存の施設等もあって、新たに造らなくてもいいんじゃないかなって思ったりもするんですけども、そこら辺はいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

現在、子育てに関する支援センターにつきましては、やまのい保育園内にあるわけでございますが、そちらの隣接します発達相談センターのめだか園が手狭になるという状況の中で、今回、子育て支援センターの移設を考える中で、先ほど市長答弁にもありましたとおり、復興まちづくりの推進と併せて、課題が解決できるといったことで、今回このような計画で進んでいるものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

3巡目の懇談というんでしょうか、終了いたしましたけれども、能生地区だとか、あるいは青海地区、議員傍聴が不可であったというふうに案内来ておりましたけれども、なぜ議員が傍聴不可であったのか。

それでまた、能生地区だとか青海地区、そこら辺の反応というんでしょうか、そういったものは、

どういったものがあつたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員の皆様から傍聴させていただきたいということを説明する、相手様のほうにお伝えしまして、相手のほうから議員の方がおると少し緊張してしゃべりづらいとか、そういうことを聞いたりしたものですから、相手の意向によってどうぞというところもありましたし、ちょっと嫌だなというような、そこで不可・可というような位置づけをしたものでございます。

青海と能生に関しましては、やはり地元と少し、若干異なりまして、子育ての施設に関する、もうそろそろ運営について、具体的に休日はどうなのかとか、遊具はどのようとか、かなり具体的なほうに大分皆さんの関心が寄せられてきておる、そういう色合いが糸魚川の町なかよりは強いかなといった状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

大変大事な、今ホットな話題となっておりますので、何か議員がいると駄目だとか、そういうあれはないと思うんですよね。やっぱり大事なことなんで、我々も市民の皆さんの声を聴かないと、なかなかどうなのかなって考えながら、本当にあれば越したことはないんだろうとは思いますが、やっぱりかなりああいう施設ということになると、1回建ってしまうとなかなかこれを撤去するなんてことはまずできませんので、そういう部分ではやっぱりもうちょっとオープンな運営というんでしょうか、そういった部分でやってもらったほうが良いと思うんです。現に3巡目ということで、ほぼ決定に近いような、そういう内容でございますので、やはり行けないというのは、私はちょっと残念だったなというふうには思っておるんです。ほかはある程度、糸魚川の市内のほうは回らせてといたしますか、聞いたつもりではおるんですけども。

ただ、やっぱりいろいろ聞いてますと、ある程度対象となってる方に関しては、非常に欲しいというか、肯定的な部分は多いんですけども、ただ、一歩その世代の方じゃない場合は、ちょっと冷めているというか、あえて言うのにぎわいが、最初になぎわいというようなことを言っちゃってるもので、どうしてもそれが根っこにあるものですから。じゃあ果たして、子育て支援センターが来て、本当にあそこになぎやかになるのかというようなこともあるし、場合によってはちょっと、若いお母さんとか、その世代の方はいいのかもしれませんが、やっぱりちょっと年齢が上がった層になると、なかなか入りにくいとか、そんなようなやっぱりつかかるものですから。あえて言えば、ちょっとミニコンビニだとかというような、そういったことにもなってしまうと、なかなか100人いれば、随分ちょっとまた違うような、市内の各層によっても大分違うような動きがあると思いますか、そのように判断しておるんですけども、なかなか一様にはちょっといかない

いうふうに思っておりますけど、改めて、課長さんどう思っておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、前段の3巡目になってやっとというようなお話でしたが、それまでは旧態依然という言い方は適切かどうか分かりませんが、議会・委員会等でお話をして、その後、地元に行って話をするというようなやり方をやっておりましたが、結局は、私どもの会議録ですとか私の発言とかを通じて市民の皆様の声をお聴きしていただくようなこととなりますので、今回3巡目に関しましては、市民の皆様がどういう声を出しておるかということに加えて、私どもがどういう説明の仕方もしているのかということも聞いていただきたくて、このような扱いにしたものでございます。もっと早くからやっとけば、本当によかったかなとは思っています。

あと、冷めているとか高齢化につながるかといったお話、当初の頃からいろいろございました。あその場所については、商店街の皆様というお立場の方と地元にお住まいの方というお立場の方、それぞれが一緒になっておる地区で、やはり子育てだけで見ますと、特に地元の高齢者に関しては、私たちに関係ない施設だねというようなことで、コンビニとかそういうご要望を頂いたところなんですけど、そういう商業施設に関しましては、なかなか経営的に厳しいということで説明しておりますし、ただ、コンビニじゃなくても、例えば地元のご要望の第2位が図書コーナーというようなもので、それに関しましては、何とか実現させていきたいというようなことでも計画を進めております。今まだ、これから基本計画を固めていくということですので、私ども、今最初から決めつけておる計画ではございませんし、今後も適宜説明しながら計画づくりを進めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

次に、遊戯場に関してちょっとお聞きしたんですけれども、今人口増といいますか、それが見込めないということで、こないだ委員会だったと思うんですけれども、大体小学校6年生まで、12歳まではどのぐらいの利用率といいますか、今糸魚川市の人口から比べて何%なのかと聞いたときに、たしか0.8%というような答えが返ってきたかと思えます。要は1%も満たないというようなことで、非常に人の成長過程の中では、12歳までというのは大切な期間だろうとは私も思っておるんですけれども、本当にそうだからといって、本当に必要性があるんだろうかなというふうに思うんです。大変、そんなに安い買物でもないし、かなり高額なものだというふうには認識はしておるんですけれども、そこら辺はやっぱり先ほども言いましたように費用対効果というようなことで、本当に糸魚川市にないから、瞳が輝かないというような、そういうものでもないと思うし、もしある施設にあるのであれば上越でも行っていただいて、そちらでもまだいいのかなとか、そんなふうにも思ったりもするんですけれど、そこら辺は改めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回3巡目の懇談会から対象年齢を小学生、6年生まで広げたところがございます。そちらにつきましては、例えば兄弟で高学年のお子さんと低学年のお子さん、また、保育園に通われてる方が、兄弟で参加できるような場合はどうなんだろうかというふうなご要望も踏まえまして、今回、小学校高学年まで広げたところであります。要は小学校高学年だけで来るかということになりますと、そこはまた小学生になりますと、それぞれまた行動範囲であるとか、遊びの内容というのが変わってくるかと思いますが、小学校の高学年でも利用できる場所というふうに考えたいというふうに思っておりますし、また、上越市にありますオーレンプラザの中にも屋内の遊び場があります。そういった中でも、工夫をする中で年齢別といいますか、ある程度学年を区切ってゾーンを設けるなどがとか安全対策を講じておりますので、そういった部分には十分配慮したいと思っております。

また、糸魚川市になくて上越市にでもというふうなお話でございますが、中には上越市の施設を利用されてる方というのも実際にはいらっしゃいます。

また、平成29年にも子ども・子育てに関するアンケート調査で、どういった施設整備が望まれるかという自由意見欄を頂いておりますが、そういった中では、やはり糸魚川市、日本海側の冬であるとか梅雨時期の荒天の際に、屋内で遊べる場所が欲しいといった意見が一番多く頂いているものですから、そういったものにも応えたいということで、今回、屋内遊戯施設の整備を進めていきたいというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

なかなかちょっとまだまだ説得力、聞けばそうなんでしょうけれども、なかなかちょっとまだ説得力がないというわけじゃないですけどね、やっぱり響かない感じはやっぱりするんですね。

米田市長にお伺いします。

やっぱり費用もかかることでございますし、本当にやるおつもりなのか、建ててから閑古鳥という失礼な言い方になるんですけども、本当ににぎわいの拠点というふうになり得るのか、そこら辺をちょっとお聞かせいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、市民の皆様方、また関係者の皆様方にいろいろと情報収集をさせていただいた状況でございます。にぎわいの拠点という、やはり言葉が独り歩きして、そういういろんな思いをそこに

お持ちの方々がいろんなご意見頂いております。それをまとめて進めていきたいと思っておりますし、行政といたしましては、行政課題をまずは優先させていただきながら、それに付随する、またそれで人が集まる、にぎわいというのは人が集まったり行動することがにぎわいになるわけでありますので、若い人たちだからならないとか、年代の人たちが来ないでは困るわけでございますので、なるべく多くの市民の皆様方がいろいろとやはり、その施設ができることによって行動範囲が非常に広がっていくことを私は大切にしていきたいと思っておりますので、今、議員ご指摘のところの部分については、その中でも有効な施設の一つとして捉えて、今絞り込みをしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

やっぱりお金の問題もあると思うんですけどもね。本当に返していけるというわけじゃないですけども、そこら辺の見通しというのは立っておるんでしょうか。それとも全くまだそういうのは未定で、独り歩きしているというような、そういったことはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

公共施設に対しましての投資効果というのは、やはり市民の皆様方がご利用されて、私は何ぼだと思っております。金銭的にどうやって返していくかという形では、公共施設というのはそういうものではないんじゃないかなと思っております。市民の方々が利用をたくさんしてもらうことが、そのお返しになってくる一つの考え方で、それをいかに活用して、そしてまた利用していくか、そういうところが私は大切にしていきたいと思うわけでございますので、公共施設はそういうところに投資させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

本当に糸魚川市には、空き店舗だとか既存の施設、空いてる施設があると思うんですね。なので、それは目をつぶっておいて、新たに造るというのが一番簡単、簡単というわけじゃないかもしれませんが、一番手っ取り早いと思うんでしょうか、そういうふうに思うんですけど。ただ、今ある既存の施設だとか、そういったものをやっぱり有効活用もしていくというか、そちらのほうも大事じゃないかと思えます。やっぱりもっと人口が増えるというような、何か客観的な事実、客観的なデータだとか、例えば米田市長がやりたいと思っている看護学校が糸魚川市にできるとか、何かそういう先見的なものがあって、これから毎月、人口が1,000人ぐらい増えるよとか、そういうような形からでも遅くはないんじゃないかというふうに思うんですけども、そこら辺はいかがお

考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は、全て計画しとることが全てだと思っておりませんし、議員ご指摘のようにやはり空き施設については有効活用していくことが一番大切だと思っております。

しかし、場所というのもやはり大きな一つの要因ではなかろうかと思うわけでございますので、やはり適した場所で適した施設をお使いいただき、そして、空いてる施設については有効活用する中で、いろんな活用の仕方も考えていかななくてはいけないと思つとるわけでございますので、場所ということも大きな要素だと思っております。そういったところを考えながら進めていきたいと思ひますし、いろんな、それを今課題の中で、全て1つで収支できるわけではございませんので、ご指摘の施設についても、しっかりとそっちのほうも今捉えて、検討させていただいたとる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

時間も迫っておりますので、3番目の質問に移らせていただきます。

本当はもうちょっと、こういう客観的なものがあるからやりたいというようなことがもうちょっと明確に分かるといいんですけども、そこら辺聞けなかったのがちょっと残念かなというふうに思ひますし、まだまだちょっと続きがあるといひますか、そういうふうに思っております。

では、3番目の質問に移らせていただきます。

柵口温泉の権現荘についてであります。前に過去の委員会の会議録で、3億円ぐらいの売上げがないと黒字化しないというような文言がありました。それについては、間違いはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

売上げの規模につきましては、例えばどういった金額の設定でお客様をお呼びするかによりまして大きく変わってくるものと思っておりますので、現在の経営でいきますと、同じようなやり方でやるとすれば2億弱、2億までは必要はないかというふうには、年間では必要ないかというふうに思っております。

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員の質問の途中ですが、ここで1時まで休憩といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ちょっと中断してしましまして、始めたいと思います。

先ほどの復習というかレビューになると思うんですけども、市営だった平成28年は黒字だったというふうに聞いておるんですけども、指定管理が始まった平成29年度からは、ずっと赤字に転落しているということで間違いはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

今ほどおっしゃったように指定管理直前の平成28年には若干の黒字、それ以降は赤字となっています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ちょっと問題というか、やっぱりちょっとどう見てもおかしいなって客観的にも思うんですね。私が聞いたところによりますと、今、週2回お休みだというふうに聞いております。実際はどうなっておるのかというその確認と、フロントの対応が悪いとか、あるいは日帰りのお客様を軽視しているというふうに聞いておるんですけども、そこら辺は本当なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

現在、指定管理者からの協議によりまして、火曜日、水曜日の週2回休んでおります。こちらはコロナ禍でお客様が減ってるという原因でございます。

それと、フロント等の対応が悪いというお話でございますが、そのようなご意見は、私どものほうにも届いておりますので、経営会議等でこちらのほうから指摘をさせていただき、改善に取り組

んでおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ちょっと対応が悪いということになりますと、サービス業でございますので、やっぱり致命的だと思うんですね。やっぱりせっかくお客様が、例えば春先に来ていただいて、じゃあ秋の紅葉のときにまた来ようかななんて思ったときに、二度と来るかというようなそういったことにもなりかねないし、やっぱりお客様ファーストでいかないと、なかなか何ていうんでしょうか、殿様商売という変な言い方かもしれませんが、それにあぐらをかいてるような企業であれば、これは本当にまずちょっといつまで待っても黒字になるわけがないというのが、私、民間出身の人間からするとそう思うんですけども、そこら辺は所長としてはいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

もちろん全てのお客様から不満を頂いてるわけでもございませんで、そのようにご不満をお持ちの方もおられるということで、対応せねばならんというふうに思っておりますし、寄せられた苦情につきましては、原因ですとかそういったものを考えながら、今後どのように対処していくかということをお打合せさせていただきながら、リピーターの確保に努めさせていただいてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

せめてお客様が来たときぐらいは、いらっしゃいませぐらいはやっぱり元気よく言っていただきたいと思えますね。やっぱり少しでも笑顔といいますか、そこら辺は接客をとといいますか、そういったものはやっぱりプロ意識を持ってやっていただきたいと思えますし、せっかく何ていうんですか、これは市長にお伺いしたいんですけども、大金をたたいて、先行投資までして、やっぱり黒字にならないというのは、結果として、当市にとって税収も見込めないことになってしまいますけれども、そういったかなり損という変な言い方ですけど、かなりの損失じゃないかと思うんですけど、そこら辺は米田市長としてはどのようにお考えでしょうか。このままでいいと、そのように思っておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

市といたしましては、やはり指定管理者で受けていただいている企業の皆様方においては、やはり黒字になっていただきたいし、また、いろんな面で我々、いろいろ提案をさせていただいたり、また我々も、いろいろとアドバイスも出させてもらっておるわけでございますし、また今、議員ご指摘のようなお話もまたあるかと思いますが、また逆によかったという人もおられます。そういったことを考えると、もっともっとやはりいろんなことを対応していかなくちゃいけないという問題が結構あるかと思いますが、そういったところをやはりしっかりと受け止めていただいて、よりお客さんが来るように努力していただきたいということも指導していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

批判は期待の表れというふうに捉えていただいて、本当に地産地消も考慮していただいて、お客様が集まる施設ということで、いい事業者さんに決まってもらうことをお願いいたしたいと思っております。

権現荘に関しては、これで、この件でやめたいと思います。ぜひ本当に、本来は設備投資も何も要るあれもないし、お金も出ることもないわけですから、本来は大黒字になってあるのは普通だと私は思いますけども、そこら辺の認識がちょっと違うのかななんて思ったりもしたものですから、このように言わせていただいております。

では、当市の諸課題について、（1）について、再度質問させていただきます。

これは実施設計業務と工事監理業務というものは、どう違うんでしょうか。この違いというのは、ちょっと私、畑が違うという変な言い方でございますけれども、ちょっとこの区別がよく分からないものですから、ちょっと分かるように教えていただくとありがたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

実施設計業務と申しますのは、文字どおり、私どもが工事として発注するための図面ですとか積算図書を業務委託をして作っていただくという業務でございます。工事監理業務と申しますのは、そういう設計業務を外注するような、複雑だったり大規模であるような場合、あと建築物全般に現場で図面どおり、設計どおり作られているかというのを常時見る必要があります。場合によっては、現場にほぼ常駐するようなスタイルが必要になるんですが、現状のなかなか建築技師の人員では、

そういう状態の確保をすると、ほかの仕事もできなくなるという実情もございますので、工事発注後、現場の管理をしていただくことも外注をしておるということで、それが設計業務と監理業務の違いでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ホームページでは、後は委員会でもちよろっとは休憩の合間にあったんですけども、受注者に県単価の入った積算図書を提供していたものが判明したというふうにあるんですけど、これはなかなか気がつかないものなんでしょうか。この工事監理業務におきましては、そういうなかなか気づかないと、そういうものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

一連の田中議員からの質問に際しまして、県等の協定に反して、そういう設計業者のほうに単価が渡ってしまったということ、その際に、私どもほかにそういうような事例がないかチェックいたしまして、コンプライアンス調査特別委員会等でも報告をさせていただいたのですが、そのときに設計業務でそういう事案が発生したということで、私どもチェックの目が、先ほど説明しました設計業務委託のほうにばかり集中してしまっただけで、結果として、市長答弁のとおり監理業務の中には現場でいろいろな変更が生じたときに、変更の設計図書を作るという業務も含まれておるんですけど、そこの部分で業者と単価のやり取りがあったところをチェックする私たちが、気づけなかったというものでございます。大変申し訳ございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ちょっとあまりよく分からないんですけども、担当者が2名いたというふうには聞いておるんですけども、担当者2名別々なんでしょうけれども。それが今回これだけ前のときも騒いでという形でいたにもかかわらず、この担当者、現職の担当者がなぜ言えないのかといいますか、気がつかないのか、それとも本当に無知で、全くそれも県単価が言ってもいいか、それすらも分からなかったのか、それとも何かヒアリングをして、やっぱりちょっとやましいところがあったんだけど黙ってたとか、そういうような認識のものなんでしょうか。そこら辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今回の新たに判明したというのは、時間的に申しますとコンプライアンスの委員会ですとか、あと県のでんまつ書を3月に出した。その時点で、本来はその2件も併せて5件で報告すべき内容が、後から2件の新たなそういう事実が判明してしまったということで、完全に私どものチェックのミスというか、チェック能力の不足という部分によるものでございます。

やはり2名の職員に私のほうでも、やはり聞き取りを行いました。設計業者、監理業務業者との間には、契約の際に秘密保持の契約が交わされているのでということで勝手な判断をしてしまったというところがそもそも原因で、県との協定とか、そういうところがあるときには、当時はそういう協定があるということの認識が本当に不足していたという部分。あと繰り返しになりますが、最初の指摘を受けたときに本当に設計業務のほうに注視をし過ぎて、言うに言えなかったということではなくて、そういえばというような感じで、今回もまた議員のほうからの資料請求でチェックしとって気づくという、非常に言い訳もできないお恥ずかしい話なんですけど、経緯としてはそういう状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

私は心配しておるのは、懲戒免職を受けた前の係長と同じ部署で、その指示に基づいてやったんじゃないかとか、そういうことになる組織ぐるみというようなことになるかと思うんですけども、そういった心配はないと断言できるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

最初のコンプライアンス委員会で、皆様のほうにご報告いたしました、県にてんまつ書を報告したのは、元の職員が全て担当する業務でした。

ただ、そのとき報告が漏れた2件に関しては、今現在の職員のことですので、逆に設計図書を作ってもら業者とそういうやり取りが頻繁にされておったかということ、実際にはされていない業務委託もございますので、その都度その都度の忙しさとかそういう判断で、守秘義務を自分の中で盾に渡したりしたという。基本的には業者との単価のやり取りはなくて、業者から上がってきた成果品で自分が積算し直すという業務をやっておるんですけど、その2件に関しましては、業者との直接そういうやり取りがあったというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

全く違う係だったということによろしいでしょうか。全く懲戒免職を受けた元係長さんと、この今の職員とは、全く接点がないというふうな認識でよろしいのでしょうか。それとも何らかの関わりもあったということなんでしょうか、そこら辺はつきりさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

係としては、建設課のときには、当時、建築係というもので、元職員も、新たに判明した2名も同じ係です。それが元職員の指示かといいますと、先ほどの答弁の繰り返しになりますけど、一律全てそういう単価を業者に、県との協定を踏まず、協議を踏まず渡していたわけではございませんので、その辺についてはなかったものというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

係長というのは、どういう立場なんでしょうか。かなり権限があるというふうに見ていいんでしょうか。そこら辺どういうふうなポジションなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

当時、技術系の、建築系の係長が技術系であるときと技術系でないとき、それぞれ違いがあるかと思えます。基本的には係長の業務としましては、私どもの目的どおりの設計図書になっているかとか、また、当然予算上大丈夫か、あと目的が達成されるようなことになってるか、あと基本的には間違いがないかと。そういうことをトータルで判断するというのが、係長の役割かと思えます。

ただ、技術系係長というのがないときには、設計ですとか積算に関する部分は、今の技術系職員がお互いを補いまして、それ以外の予算上の部分とかそういうところは、事務系の係長が補っておるというような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

平成31年4月から営繕積算システム、これRIBC2と読むんでしょうかね。利用して、設計積算しているから、同様の事案は発生しないとあるんですけど、これはもう大丈夫なんですか。私、心配なのは、いずれも人が管理しておるわけでございまして、あまりシステムに信用し過ぎて同じ過ちじゃないんですけども、やっぱりそれをあまりにも信用し過ぎて、最終的には人でございまして、そこら辺やっぱりちょっとしっかり管理ができているのか、そこら辺をちょっと教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今のRIBC2、リビックというふうに私どもは呼んでおるのですが、これは私ども発注するサイドと設計をするサイドのほうで、基本的には同じシステムを使っているんですが、そういう県の単価に関わる部分、マル秘とか、そういう協定が結ばれているところに関しては、事業者側からは見えない仕様になっています。設計・積算部分の、私ども資料・データを頂いて、行政のほうで使っているシステムを使うことで、その部分の単価が、県の単価が反映されて全体が見えるというような状況で、忙しいから流出するとか、そういう必要性というのは排除されたシステムなんですけど、逆にリビックがあるから大丈夫、大丈夫と言っても、仮に悪意があった場合には、単価表自体のデータを渡す、渡さんということ、この積算システムというのは根本的には違う部分のお話だと捉えてますので、その辺はコンプライアンス的な徹底、県の協定の意識づけというのはやっていかないといけない話でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

米田市長にお伺いします。

民間企業には、やっぱり優秀な人材がたくさんおりますし、やっぱり信用できない職員とか、そういうことになると、今後やっぱり係長職だとか、あるいは課長職を糸魚川市で募集するというような考えはございませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

コンプライアンスにかかわらず、やはり優秀な能力、また知識の持った職員については、特に技術職は不足しとるものですから、採用していきたいという気持ちはございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

それでは、肥料の価格に関してでございます。

今回の補正予算で補填があるということなんですけど、案が出てるといことなんですけど、これは1,270万円ということよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

今回の9月定例会で予算要求させていただいた額については、その額となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

これはどこからはじき出して、根拠というんでしょうか、この数字の根拠というのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

数字の根拠というところで、一応、反当たり1,000円という単価で見込んではいませんが、それはあくまでも目安でありまして、それのお支払いを各農業者さんにさせていただくというわけではありません。国のほうの計算式が、価格の上昇率と、まだ今現在では、率が分からないものもございまして、また今回は、反当たりというような制度設計ではなくて、実際、農業者さんが一定の期間にお支払いになった肥料費を基に計算するというような形になっておりますので、市として大変総額が見込みづらいという形でございます。その中でどういうふうに計上していくかというところで、反当たり1,000円という形でさせていただいたところでございます。

ただ、執行等につきましては、国のほうで今、具体的な計算式等が出ておりますので、それに基づいて補填していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

今後、また値段が上がったりすると考えていくというような、そういう認識でよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

国につきましては、今回、今年の6月から来年の5月までの間に購入した肥料ということで方向性を示しております。当市においても、また国のほうに準じて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

給食費でございますけれども、ぜひ据置きということで、そういった考えはございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回6月の補正予算で計上させていただいた部分につきましては、今年の4月から来年の3月分までを見込んでるところでございます。今後のまた物価変動の情勢を見る中で、必要に応じて対応してまいりたいと考えております。

○8番（渡辺栄一君）

ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を1時半といたします。

〈午後1時25分 休憩〉

〈午後1時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、近藤新二議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。〔16番 近藤新二君登壇〕

○16番（近藤新二君）